

令和2(2020)年度
酪農家へのアンケート調査
結果報告書

— 酪農経営と公共牧場に関する調査 —

令和2(2020)年 11 月
栃木県農政部畜産振興課

【酪農】

【調査概要】

1 調査項目

- (1) 経営の概要
- (2) 公共牧場に関する意向

2 調査対象

県内すべての酪農家 626 戸
(家畜伝染病予防法第 12 条の 4 (定期の報告) に基づく)

3 調査時期

令和 2 (2020) 年 8 月

4 調査方法

酪農業協同組合の協力の下、集乳車での集乳時にアンケート用紙を配布・回収

5 調査実施機関

栃木県農政部畜産振興課

協力機関

酪農とちぎ農業協同組合

栃木県酪農業協同組合

那須箒根酪農業協同組合

両毛酪農業協同組合

6 回収結果

アンケート用紙を配布した 626 戸のうち、344 戸から回答があり、回答率は 55.0%である。

7 報告書の見方

- (1) n は、回答総数または分類別の回答者数を表している。

また、M.T. とは、複数回答の設問の回答数を示す記号である。「複数回答」と記載のある質問は、複数回答を認めているため、回答計が 100%を上回る。

- (2) 百分率 (%) は、小数点以下第 2 位で四捨五入し、小数点以下第 1 位までを算出した。そのため、比率の合計値が 100%にならない場合がある。また、本文中の数値と図表の各項目の合計値が一致しない場合がある。

【調査結果概要】

I 経営に関すること

1 経営内容

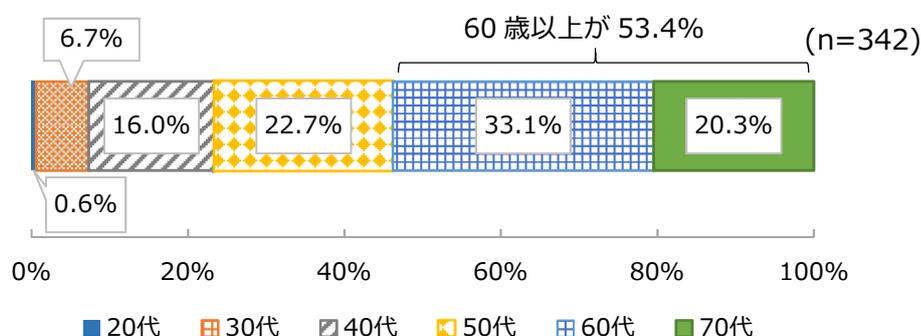
(1) 居住地域

表1 回答者の居住地域

地区 項目	河内	上都賀	芳賀	下都賀	塩谷 那須南	那須	安足	未記入	計
回答者数(人)	6	25	30	24	31	209	11	2	344
割合(%)	1.7	7.3	8.7	7.0	10.8	60.8	3.2	0.6	100.0

(2) 年齢

図1 回答者の年齢



(3) 飼養頭数と草地面積

農林水産省の畜産統計に準じて飼養規模別に戸数を集計し、表2に示した。

飼養戸数343戸には経産牛頭数が100頭以上300頭未満のメガファームが30戸、経産牛300頭以上のギガファームが3戸含まれる。

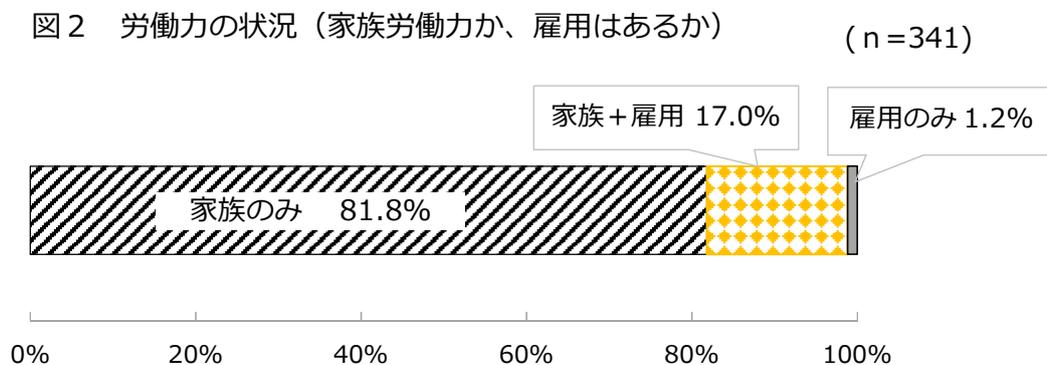
表2 経産牛の飼養規模別飼養戸数・頭数と草地面積

区分	計	1~19 頭	20~29 頭	30~49 頭	50~79 頭	80~99 頭	100頭 以上	300頭 以上
飼養戸数(戸)	343	74	61	102	61	12	30	3
割合(%)	100.0	21.6	17.8	29.7	17.8	3.5	8.7	0.9
平均飼養頭数(頭)	49.1 (中央値:35.0)	11.8	23.9	37.7	59.5	87.8	141.9	580
全飼養頭数に占める 割合(%)	99.9	5.2	8.6	22.8	21.5	6.3	25.2	10.3
酪農以外の他部門 導入農家数(戸)	74	15	12	21	15	5	5	1
うち 和牛繁殖(戸)	69	15	11	20	14	5	3	1
和牛子牛育成(戸)	4	-	-	1	1	-	2	-
肥育(戸)	1	-	1	-	-	-	-	-
平均草地面積(ha)	8.4 (中央値:7.0)	4.5	6.8	8.1	11.1	9.1	15.9	25.7

【酪農】

(4) 経営形態

労働力が、家族労働力のみ酪農家は81.8%である。家族労働力の他、雇用労働力を利用して酪農家は17.0%であり、雇用労働力のみ酪農家が1.2%である(図2)。



(5) 労働力

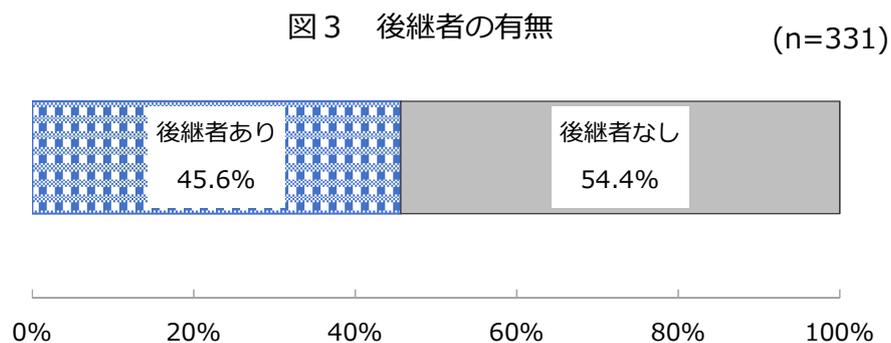
家族労働力のみ酪農家における労働力は平均2.4人、雇用を用いた酪農家では平均5.1人となっている(表3)。

表3 労働力の内訳

区分	戸数(戸)	平均労働力(人)	内訳
雇用労働力なし	226	2.4	家族労働力のみ
雇用労働力あり	45	5.1	家族労働力: 平均2.6人 雇用労働力: 平均2.7人

(6) 後継者

後継者がいると回答した酪農家は45.6%である(図3)。



2 経営に関する取組

(1) 5年後の経営規模

5年後の経営規模については、63.8% (213戸) が現状維持、19.2% (64戸) が規模縮小、17.1% (57戸) が規模拡大を予定している (図4)。

規模拡大を予定する57戸の内訳は、乳用牛のみを増頭する農家は44戸 (77.2%)、乳用牛・繁殖雌牛の両方を増頭する農家は12戸 (21.0%) である (表4)。

図4 5年後の経営規模 (予定)

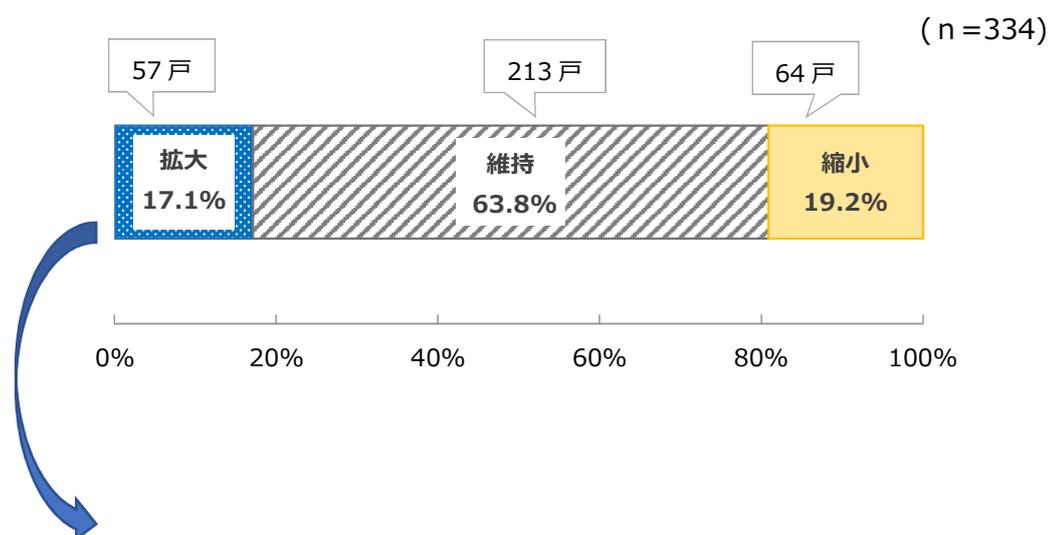


表4 規模拡大の概要

概 要	農家数 (%)	平均増頭数
規模拡大予定	57戸 (100.0)	123.0頭
乳用牛を増頭	44戸 (77.2)	124.1頭
乳用牛と繁殖雌牛を増頭	12戸 (21.0%)	乳用牛 96.6頭 繁殖牛 19.1頭

増頭畜種及び頭数の記載なし1戸 (1.8%)

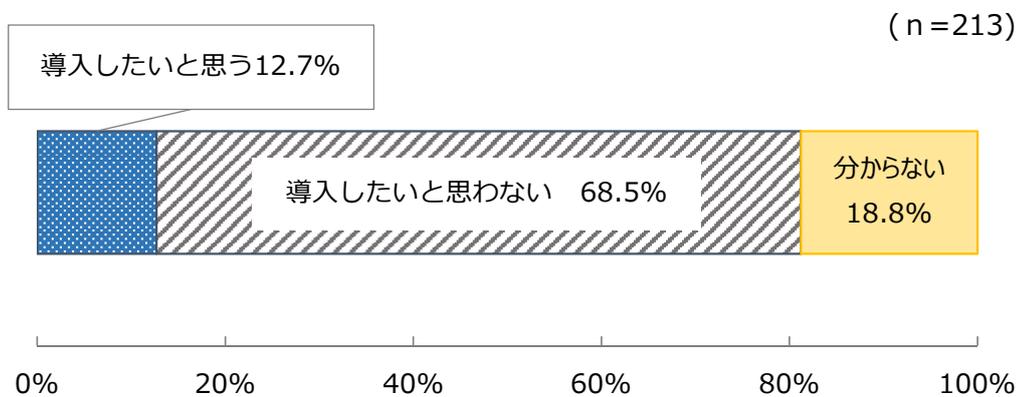
【酪農】

(2) 和牛繁殖雌牛を導入する意向について

問 5年後の経営で、繁殖雌牛を飼養する計画がない方がお答えください。
繁殖雌牛を県内の公共牧場など外部に預託できる（周年を含む）場合、導入したいと思いませんか。当てはまる項目に○をつけてください。

5年後に繁殖雌牛を飼養する計画がない農家に聞いたところ、繁殖雌牛を外部に預託できるとしても導入したいと思わない農家が68.5%となっている（図5）。

図5 繁殖雌牛導入の意向

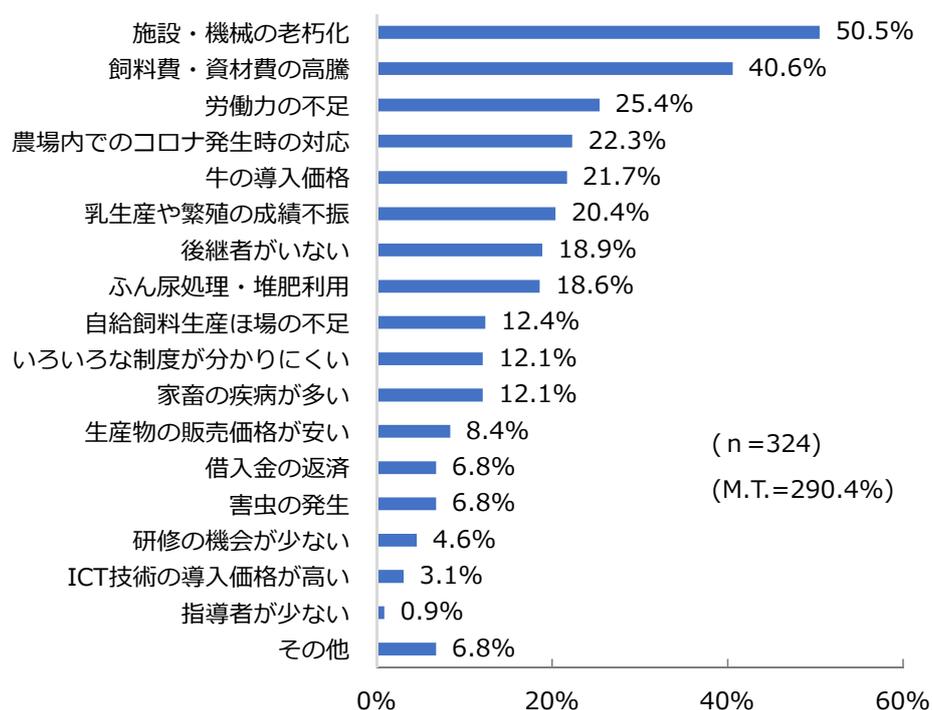


(3) 経営上、困っていること（複数回答）

問 あなたの経営で特に困っていることは何ですか。当てはまる項目を3つ選んでください。

すべての酪農家に、現在の経営で困っていることを聞いたところ、50.5%が「施設・機械の老朽化」、40.6%が「飼料費・資材費の高騰」と回答している（図6）。

図6 経営上 困っていること



<その他の意見>

- 飼料作物ほ場のクマ、イノシシ、カラス等の鳥獣害
- 農家数が減少したことで、関係団体等の役職負担が増加
- 書類の手続きが複雑
- 機械更新の補助事業がない
- 外国人労働者の不足（コロナで入国できない）

【酪農】

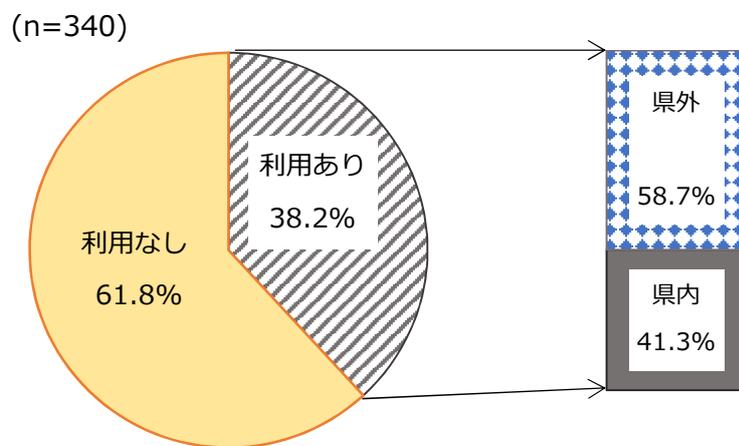
Ⅱ 公共牧場に関すること

1 公共牧場利用状況

問 あなたは現在、公共牧場を利用していますか。
公共牧場を利用している方は預託先（県内、県外）を教えてください。

公共牧場を利用している酪農家は 38.2%で、そのうちの 58.7%は県外の牧場を利用している（図7）。

図7 公共牧場利用状況

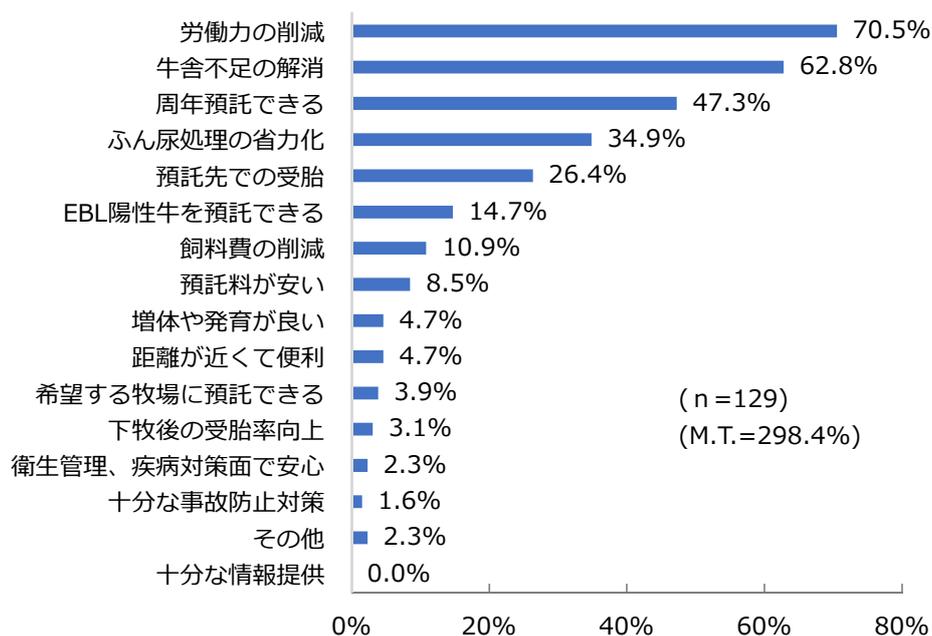


2 公共牧場を利用する理由（複数回答）

問 あなたが公共牧場を利用している主な理由を3つ選んでください。

公共牧場を利用している酪農家にその理由を聞いたところ、70.5%が労働力の削減を挙げている。次いで、牛舎不足の解消62.8%、周年預託47.3%となっている（図8）。

図8 公共牧場を利用する理由



<その他の意見>

- 四肢（足）が強くなるので。
- 自家農場に同時期生まれの（月齢に近い）牛がおらず、群編成ができない場合に利用する。

【酪農】

3 公共牧場に対する満足度

問 公共牧場に対する満足度を3（高い）・2（中間）・1（低い）で評価し、当てはまるところに○をつけてください。

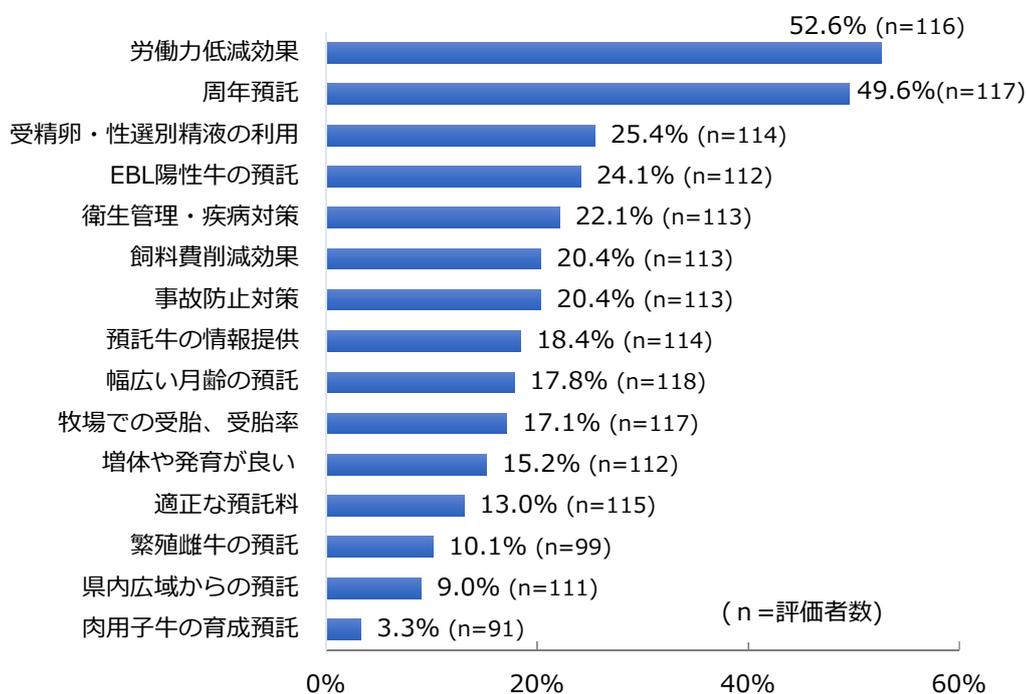
*「肉用子牛の育成預託」は、農家に代わって肉用子牛を育成するキャトルセンターを想定したもの

公共牧場を利用している酪農家に満足度を3（高い）・2（中間）・1（低い）の3段階で評価してもらい、各設問に回答した人数（n）のうち3（満足度が高い）と評価した割合を図9に示した。

（例）労働力低減効果の場合、この項目に回答した人数は116人（n=116）、うち満足度が高いと回答した割合が52.6%である。

公共牧場を利用している酪農家では、労働力低減効果（52.6%）や周年預託（49.6%）に対する満足度が高い。

図9 公共牧場利用者の満足度
（満足度を高いと評価した割合）



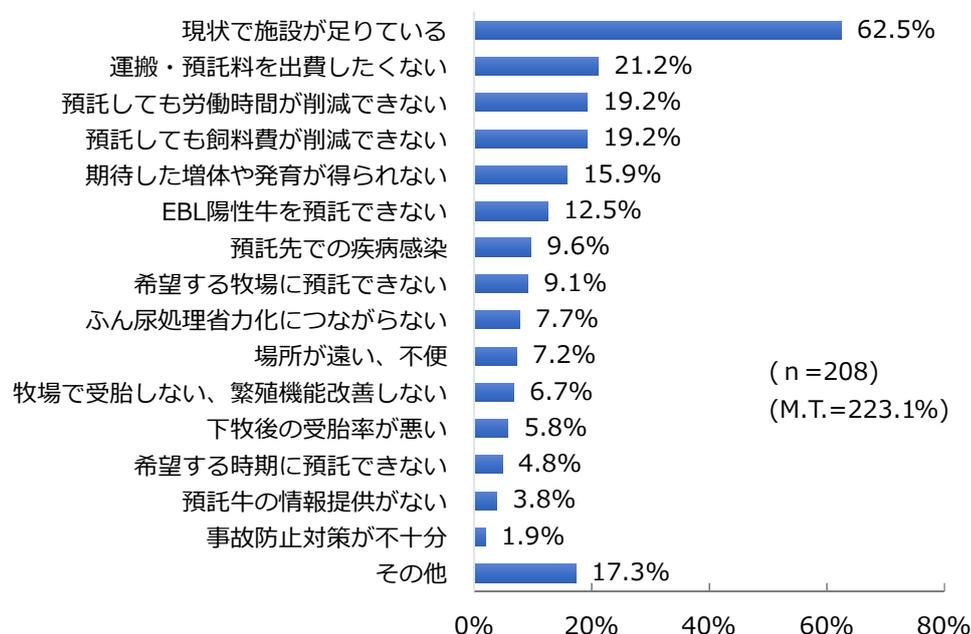
4 公共牧場を利用しない理由（複数回答）

問 あなたが公共牧場を利用しない主な理由を3つ選んでください。

公共牧場を利用していない酪農家のその理由を聞いたところ、現状で施設が足りている（62.5%）を選択した農家が多く、次いで運搬・預託料を出費したくない（21.2%）が挙げられている。

また、預託しても労働時間が削減できない（19.2%）という意見もある（図10）。

図10 公共牧場を利用しない理由



<その他の意見>

- 他の預託牧場や個人牧場を利用している（7件）。
- 預託するだけの育成牛がない。子牛の育成をしていない（7件）。
- 希望する牧場は収容頭数一杯（満員）で受け入れできない。
- 預託した際、発育不良や死亡事故を経験した。
- 経営上、労働力が不足、入牧・下牧時にトラックへの牛の積み込み等が手間。
- 高齢化や体力等の理由。（規模縮小も視野に）
- 自分で管理したい等、経営方針。
- 防疫のため。
- 公共牧場を知らない。

【酪農】

5 これからの公共牧場に求めること

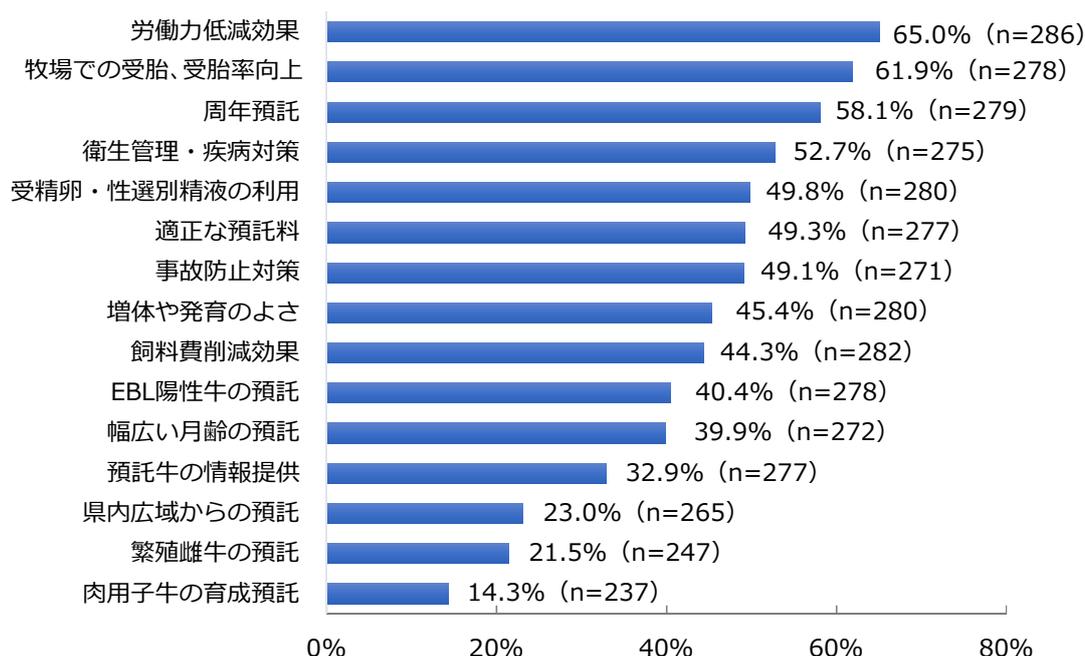
問 これからの公共牧場に求めることについて、次のそれぞれの項目の重要度をA（高い）・B（中間）・C（低い）で評価し、当てはまるところに○をつけてください。

これからの公共牧場に求めることについて、全酪農家に各項目の重要度をA（高い）・B（中間）・C（低い）の3段階で評価してもらい、各設問に回答した人数（n）のうちA（高い）と評価した割合を図11に示した。

（例）労働力低減効果の場合、この項目に回答した人数は286人（n=286）、うち重要度が高いと回答した割合が65.0%である。

これからの公共牧場に求めることでは、労働力低減効果（65.0%）、牧場での受胎や受胎率の向上（61.9%）、周年預託（58.1%）、衛生管理・疾病対策（52.7%）について50%以上の農家が重要度を高いと回答している。

図11 これからの公共牧場に求めること



6 その他自由意見

- 公共牧場や預託を利用したことがないので、わからない（6件）。
- EBL陽性牛を預託できる牧場を増やして欲しい（4件）。
- 公共牧場は将来的に必要と思う。増頭した際には利用したい（2件）。
- 牧場は牛の発育や受胎率が悪い（2件）。